

S P P (サイエンス・パートナーシップ・プログラム) はいかに活用されてきたか?

How Is 'Science Partnership Program' Utilized ?

中島 健 [1]

Takeshi NAKAJIMA[1]

[1] 滋賀・守山中高

[1] Shiga Pref. Moriyama HS.

平成14年度以降、文部科学省が主催する「科学技術・理科大好きプラン」の一環として、サイエンス・パートナーシップ・プログラム(SPP)が実施されている。この事業は、青少年や教員が実験・観察・体験を通して科学技術の本質に接し、その発展に携わる研究者・技術者の姿に触れる機会を充実することにより、「科学技術創造立国」を目指す我が国の次代を担う人材の育成を図るというものである。この制度を活用して、これまで多くの事業が各機関で実施されてきた。

学校教育「理科」を物化生地に分けるとき、特に地学分野の衰退が憂慮され始めて久しいが、このSPP事業に含まれる教員研修に限っていうならば、地学・天文分野に関連する事業の採択率は他分野より高いといえる。この背景には、人材面でも教材面でも、日々進化し続ける地球惑星科学に対応し切れていない地学教育界の現状や、多発する自然災害に対する教員の理解度の不足などが潜んでいると考えられる。

しかしSPP事業の研究者招聘講座や教育連携講座については、採択数は少ない。これは応募数そのものが少ないためとも考えられる。また過去に実施された事業をみると、内容や地域に偏りがあり、このままでは早晚手詰まり状態になることも考えられる。

平成18年度から事業受託機関が三菱総合研究所からJSTに変わり、事業名もサイエンス・パートナー・プロジェクトとなったのを機に、事業に対するわれわれの姿勢を見直す必要性が出てきたと思われる。